

三倍楽しめる東京

森記念財団研究員
脇本敬治

このところ大相撲の人气が大きく回復している。横綱白鵬が31回目の優勝を決めた9月場所では、実に15日のうち14日間大入りだった。新入幕の逸ノ城の大活躍や新大関、豪栄道の誕生。若手ながら元気の良い相撲を見せる遠藤、エジプト出身の大砂嵐と注目される力士が、新しいファンを開拓している。

東京の本場所で特に目立つのが、若い女性と、外国人である。日本では知らない人が無い相撲であるが、数年前に不祥事が続いたことから観客者数も人気も大きく減らしてしまった。相撲協会は捲土重来を期し、来場者数と人気を回復させようと、さまざまな媒体を利用し大相撲の魅力を伝えようと努力している。テレビだけでなく、ネットやSNSサービスを利用し、新たなファンの開拓に向けて様々な企画を出していることには驚きを感じるほどだ。今年は女性向けに「お姫様抱っこ」や、着物で観戦するとプレゼントがもらえる「和装 DAY」といった企画が話題となり、それまで来場したことのなかった女性の注目を集めた。

また、旅行社と企画し相撲部屋の朝稽古見学と本場所がセットになったツアーは外国人に人気となっている。大相撲は力士を輩出している国々、モンゴル、アメリカ、ロシアなどでは知名度が高かったが、最近ではそれ以外の国々にも知られ始め、大相撲の各場所で、外国人の観客を多く目にするようになって来ている。昨年の九州場所では、相撲好きのポール・マッカートニーが観戦し、懸賞金をかけたのでイギリスでも話題になった。友人のイタリア人夫妻を東京の本場所に招待したことがあるが、本物の迫力と伝統の奥深さに感動し、こんな素晴らしい文化があるのは知らなかったと、早速友人や家族にフェイスブックで伝えていた。



新たなファンを開拓しつつある大相撲



豊国「濡髪長五郎」(左)「放駒長吉」(右) 国立国会図書館デジタルコレクション

両国国技館で大相撲九月場所が開催されていた同じ時期に、東京の国立劇場では相撲を取り入れた文楽の名作がかけられていた。1749年7月に大坂竹本座で初演され、翌月歌舞伎として京都で初演し人気になった『双蝶々曲輪日記』である。大阪相撲の人気力士、濡髪長五郎と放駒長吉を巡るお話であるが、原作はかなり長い作品で、歌舞伎にしても文楽にしても、人気のある場面だけ

が上演されることが多い。ところが今回は通し狂言として、普段はあまりかからない段までが上演された。見る側としては、大きな筋を追うことができるので、作品の背景もよく分かるし、感動の深みも増す。当時の人々の暮らしぶりや、何気ない様子までが描かれているので、それがまた興味深い。

10月には歌舞伎公演として上演。文楽は原作に忠実に上演されるが、歌舞伎はそれに比べ、役者に応じて工夫や演出の変化が加えられることが多い。人形と役者の違いだけでなく、二つの芸術の表現の違いを実感できる良い機会である。265年前の大坂の相撲と現在の相撲の様子はどう違うのか、文楽や歌舞伎の舞台を通じ垣間見ると、両国でみる現在の本場所の取り組みや、国技館の様子もまた、味わい深くなるだろう。大相撲、文楽、歌舞伎を単独で鑑賞するだけでなく、少しの工夫で、二倍三倍にも楽しむことができるのが東京の魅力だろう。

日本では伝統芸能として、よく知られている文楽、歌舞伎、大相撲であるが、海外ではどの程度知られているのだろうか。

大相撲と並んで海外で人気が高いのは文楽である。大夫と三味線、人形が一体となった舞台は、日本人の豊かな情感が受け継がれた芸で表現され、圧倒的な存在感と芸術性の高さを誇っている。1960年代から始まった文楽の海外公演は好評を博し、2003年にはユネスコにより人類の口承及び無形遺産の傑作(世界無形遺産)に選出された。ここ数年は毎年世界各地で公演を行っており、特に昨年は現代美術家の杉本博司が企画・演出した「曾根崎心中」がマドリッド、ローマ、パリを巡る公演を成功させ話題となった。どの公演もチケットは完売し、最も多くの舞台を開催したパリでは、「ル・モンド」紙の一面トップで公演を絶賛された。また、歌舞伎では今年の夏に、平成中村座がニューヨークのリンカーンセンターで公演を行うなど、世界無形遺産に認定されている文楽、歌舞伎の注目度は舞台関係者のみならず非常に高くなっている。

外国人旅行者の東京での行動を調べた森記念財団の調査では、花見、温泉などは多くの人が体験していたが、文楽、歌舞伎、大相撲の体験は少なかった。調査時期が公演時期と離れていたこともあるが、限られた人が見に行っている状況だ。ただし満足度では、歌舞伎が5段階中4.3、大相撲が4.7と非常に高い評価を受けている。イタリア人夫妻の例のように、素晴らしさが良く知られておらず、評価の高さが、実際の観光行動に結びついていないものと思われる。

国技館や国立劇場では、英語のイヤホンガイドやネット情報も充実してきている。2020年の東京オリンピックに向け、うまく海外にも発信し、インバウンドにも繋がれば、外国人観光客の二倍から三倍増も夢ではないだろう。また、優れた芸術を持っていることを改めて自覚することは、我々日本人にとっても大きな自信になるだろう。



はですがたおんなまいぎぬ
文楽の名作『艶容女舞衣』富田人形共遊団(滋賀県長浜市)(ウイキペディア)